

共創による持続可能な 地域づくりのための パターン

ワークショップキット

Patterns for sustainable community development by co-creation



共創による持続可能な 地域づくりのための パターン

ワークショップキット

2023年11月発行

ワークショップ・キットに含まれるもの

パターン一覧

フォーマット説明

パターン・カード 40枚

白紙カード 10枚

フレームⅠ：実践状況と地域づくりの方向性を共有する

フレームⅡ：地域づくりの戦略とシナリオを考える

取扱説明書（本紙）

1. はじめに

「共創による持続可能な地域づくりのためのパターン・ワークショップキット」は、地域づくりに取り組み行政や関係者の皆様には有益な知見やノウハウを届け、具体的なアクションへ繋げて頂くための支援ツールです。

本キットは、持続可能な地域社会への転換を実現した地域づくりの先進事例を調査し、各事例で共通して見られた地域づくりの知見を 40 個の「パターン」として言語化したものです。

本キットでは、これらの「パターン」を皆様の地域にも当てはめて考えて頂くことで、これまでの取り組みを見直したり、新しい試みを検討するための気づきとなることを想定しています。

本キットは、複数人で地域づくりを検討するのに適したツールであり、行政内部での活用に限らず、企業や住民等地域づくりに関わるあらゆる関係者と実施することで、地域の実情や地域づくりのシナリオを共有しながら議論を深めて頂くことを目指しています。

2. 本キットの活用シーン例

本キットは以下のような活用シーンを想定して作られています。

- 行政が地域づくりを推進するにあたって、庁内の意識統一を図りたい

主体：行政の担当部署

参加者：行政の関係部署

- 行政、住民、企業が、共に地域づくりを検討するにあたって、地域の実情を把握し、地域づくりを構想する過程を共有したい

主体：行政の担当部署

参加者：行政の関係部署、住民・企業等

- 行政、住民、企業が、地域づくりの取り組みによる結果を振り返り、見直すべき点や改善すべき点を検討したい

主体：行政の担当部署

参加者：行政の関係部署、住民・企業等

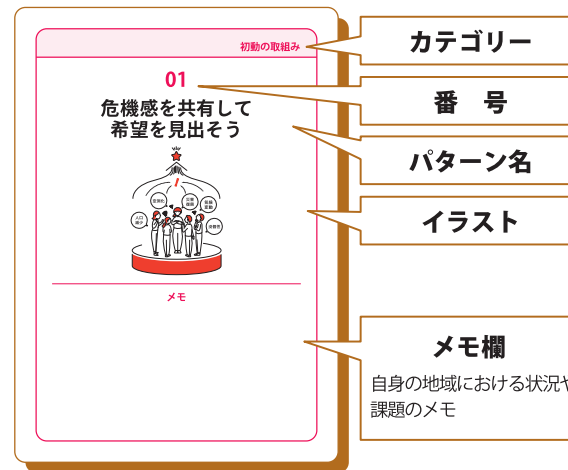
3. 『パターン・カード』の見方

パターン・カードには、地域づくりの先進事例から共通して得られた知見をまとめています。

おもて面には、パターンのカテゴリー、番号、パターン名、イラストを記載しています。

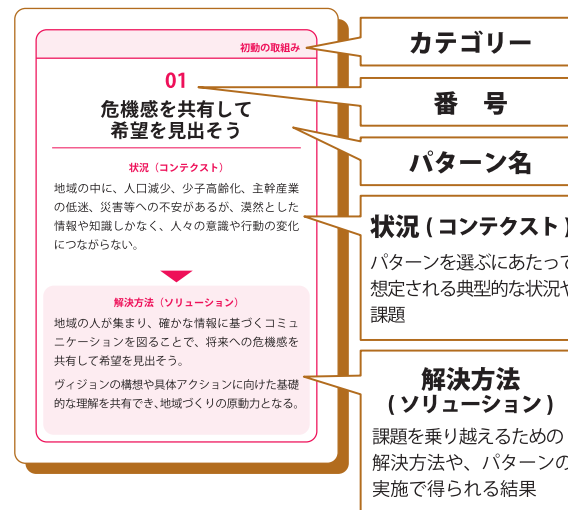
メモ欄には、必要に応じて自身の地域における状況や課題を記載下さい。

【パターン・カード おもて面】



裏面には、パターンのカテゴリー、番号、パターン名のほか、パターンを選ぶにあたって想定される典型的な状況（コンテキスト）、課題を乗り越えるための解決方法（ソリューション）、を記載しています。

【パターン・カード 裏面】



パターン・カードは、内容に応じた5つのカテゴリー毎に色分けされていますので、パターンの関係性、偏りや過不足等を確認する手がかりにして下さい。

パターン一覧

初動の取組み

- 新しい方針の下で動き出すためのパターン -

01. 危機感を共有して希望を見出そう
02. まずは住民の不安や懸念に向き合おう
03. 地域づくりの目的や理念を明確にしよう
04. 具体的な将来ビジョンを描こう
05. 小さな成功体験を重ねよう
06. つないだ希望を大切にしよう
07. 萌芽的な活動を育てよう
08. 意欲を捉えて膨らませよう
09. コミュニティを維持しよう

調査研究

- 地域状況を正確に把握するためのパターン -

10. 質の高い調査研究を取り入れよう
11. 先進的な取り組みを視察しよう
12. 専門家の知見を得よう
13. 地域の特性を活かそう
14. 地域の象徴を活かそう
15. アップサイクルの考え方を取り入れよう
16. 地域のマーケティング戦略を持とう

ローカルガバナンス

- 地域主体と共創的に地域づくりを進めるためのパターン -

17. 組織の枠や立場を超える意識を持とう
18. 住民の思いを力に変えよう
19. 地域を巻き込もう
20. 共創につながるコミュニケーションの場をつくろう
21. 対話につながる仕組みをつくろう
22. 相手に合わせた言葉や伝え方で理解を広めよう
23. ポリティカルリスクを回避しよう
24. 新たな参画者と地域をつなごう
25. 次世代人材を育成しよう
26. 子供や若者に地域の良さを伝え関心を引き出そう
27. 住民の意識を引き出す機会を仕掛けよう
28. 物語を発信しよう

組織体制づくり

- 新しい地域づくりのための組織体制に関するパターン -

29. 首長のヴィジョンを示そう
30. 庁内で正しい理解を得よう
31. 目的に合わせて体制を見直そう
32. エージェントを活用しよう
33. 継続的な活動を支える基盤組織をつくろう

プロジェクトデザイン

- 地区整備を効果的・効率的に推進するためのパターン -

34. 身の丈にあった計画を考えよう
35. 志を実現する算段をしよう
36. 地域全体で中核プロジェクトを考えよう
37. 地区整備のシナリオを考えよう
38. 現場で地域の文脈を共有しよう
39. 土地の所有と利用を分離しよう
40. デザインの共通項を意識しよう

4. ワークショップの進め方

事前に、ワークショップを主催する行政担当者等が、地域に当てはまりそうなパターン・カードを 30 枚程度厳選しておきます。ワークショップでは、参加者で議論をしながら、それらのカードをフレームの上にならべていきます。2つのフレームを使用することで、地域づくりへの理解や検討を段階的に深めていくことができます。

フレームⅠは、地域づくりの実践状況と方向性の共有を目的としたものです。フレームⅡは、フレームⅠで整理したパターンをもとに、地域づくりの戦略とシナリオを考えることを目的としています。フレームⅠのみでも、自らの地域づくりについて十分な理解が得られますが、フレームⅡも行うことで、「現在」、「近い将来」、「少し先の将来」といった段階的なシナリオが完成します。

フレームⅠ. 地域づくりの実践状況と方向性を共有する (所要時間の目安: 2~3 時間)

STEP① 各パターンの実践度合いや取り入れたいパターンを検討し、課題の整理・共有をする

- ・フレームⅠを机の上に置き、パターン・カードを参加者へ概ね均等に配布し、裏面を順番に読み上げます。
- ・それぞれのパターンについて、現段階で実践しているパターンと、現段階で実践していないパターンに大別し、【分類の指標】をヒントに、フレームⅠの該当箇所に配置していきましょう。

■現段階で実践しているパターン

- ・具体的な取組み内容や課題を話し合い、おもて面のメモ欄や付箋に記し、実践度合いに応じて、上段（ピンク）の「根付いている」、「実践している」、「少し実践している」の該当するあたりに配置します。

■現段階で実践していないパターン

- ・すぐにも取り入れたいもの、取り入れたいがすぐには難しいもの、取り入れないもの等について話し合います。
- ・取り入れたいものについては、その理由や具体的な取組み、そのために活かせる地域資源（人・こと・もの）、実践に向けた課題等をメモ欄や付箋に記し、下段（ブルー）の「すぐにも取り入れたい」、「取り入れたいがすぐには難しい」の該当するあたりに配置します。
- ・取り入れないと判断したパターンについても、その理由をメモ欄や付箋に記し、フレームⅠの「取り入れない」の欄に配置します。

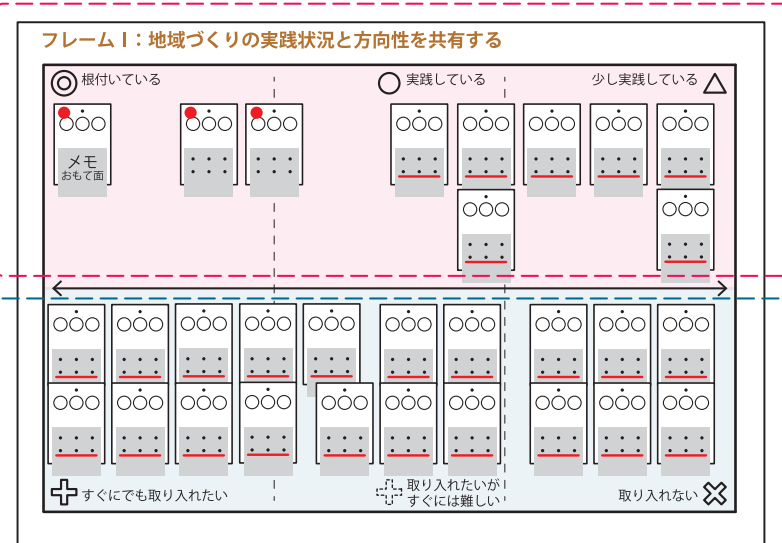
■その他のポイント

- ・メモ欄や付箋に記した意見のうち、実践に向けた課題は、赤線を引くなど振り返れるよう工夫しておきます。
- ・適合するパターンがない場合は、白紙のカードを使って新たなパターンを作成しましょう。

【分類の指標】

根付いている	既に、まちづくりの仕組みとして認識され、地域に定着しているもの
実践している	現時点で機能しているが、状況次第で失われる可能性があるもの
少し実践している	実践してはいるが、あまり機能していないもの
すぐにも取り入れたい	少し気になっていたり、気付いていなかっただけで、すぐに取り入れられるもの
取り入れたいがすぐには難しい	状況・人材・体制等が整っておらず、すぐに取り入れるにはハードルが高いもの
取り入れない	地域に馴染まないもの、取り入れることでリスクや支障のあるもの

現段階で実践しているパターン



現段階で実践していないパターン

STEP② 地域づくりの方向性を共有する

- ・完成したフレームⅠを見ながら、今後の取組み課題と地域づくりの方向性を参加者全員で共有します。
- ・「根付いている」に配置したカードに赤シールを貼り、地域づくりにおける現状の特性を共有しましょう。
- ・記録として作業結果を写真で残しましょう。

フレームⅡ. 地域づくりの戦略とシナリオを考える (所要時間の目安: 2~3 時間)

STEP③ 現在の実践状況を整理する

- ・作業を終えたフレームⅠと、新たにフレームⅡを机の上に置きます。
- ・フレームⅠの「根付いている」、「実践している」、「少し実践している」に配置したパターンを、実践した順や、共創の度合いを確認しながら、数枚ずつフレームⅡの該当箇所に移動します。
- ・すべて移動し終わったら、現段階の実践状況を参加者で確認します。
- ・ここまでの作業結果を写真で残します。

STEP④ 特に取り入れたいパターンを検討する

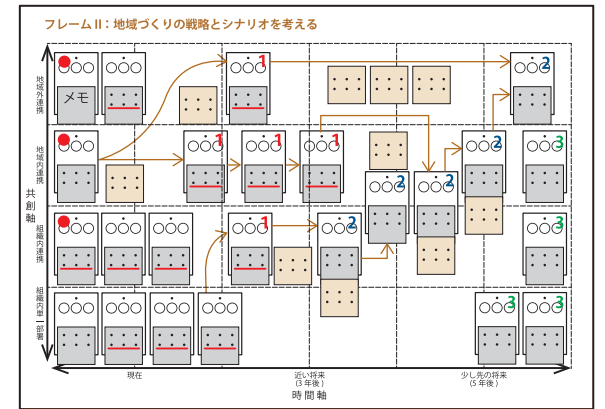
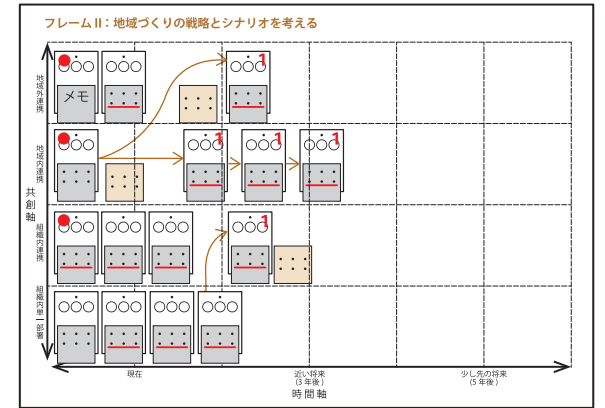
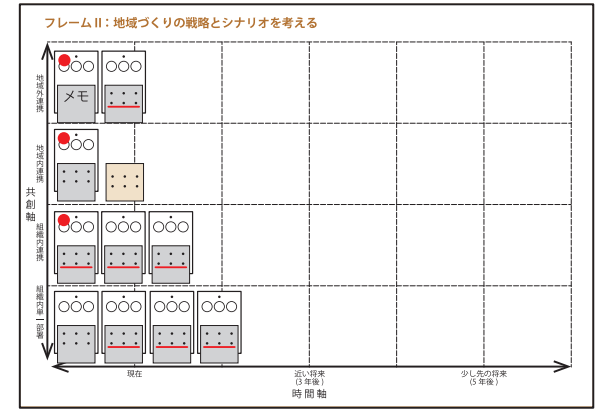
- ・フレームⅠの「すぐにも取り入れたい」と「取り入れたいがすぐには難しい」に配置したパターンの中から、重要度の高いものを 5 枚選定し、フレームⅡの軸上の適切な箇所に移動します。このとき関連するパターンをマーカー等で紐づけ、話し合ったアイデアは付箋に記して周辺に貼り付けます。
- ・地域づくりのシナリオの大きな枠組みについて話し合います。
- ・配置したカードに、特に重要度の高いパターンだと分かるよう「1」と記し、ここまでの作業結果を写真で残します。

STEP⑤ 次に取り入れたいパターンを検討する

- ・フレームⅠの「すぐにも取り入れたい」と「取り入れたいがすぐには難しい」に配置したパターンの中から、これまで選定したパターンに連動しそうなものや、チャレンジしていきたいもの等を 5 枚選定し、フレームⅡの軸上の適切な箇所に移動します。配置したカードに「2」と記し、関連するパターンをマーカー等で紐づけ、話し合ったアイデアは付箋に記して周辺に貼り付けます。
- ・時間の限りこの作業を繰り返し、選定した回数を「3」、「4」と記しながら、地域づくりのシナリオの詳細をつめていき、シナリオを完成させましょう。
- ・最後に、完成したフレームⅡを写真で残しましょう。

STEP⑥ 地域づくりのシナリオを共有する

- ・完成したフレームⅡを見ながら、自分たちの地域づくりにおいて重要なパターンを参加者全員で共有しましょう。そして、このシナリオをより多くの関係者と共有し、コミュニケーションの輪を広げ、具体的なアクションへ繋げるきっかけにしましょう。



5. ワークショップ後の活用 (反復利用)

地域づくりの施策や事業を推進する過程で、ワークショップで整理した内容を適宜振り返り、実践したパターンの結果や効果の検証、実践を強化したいパターンやその方法、新たにしたいパターンやその方法等について話し合い、進捗に応じて地域づくりの実践状況と方向性(フレームⅠ)や、地域づくりの戦略とシナリオ(フレームⅡ)を更新していきましょう。また、個々のパターンの実践に向けて、関係するステークホルダー等と様々なアイデアを出し合い、イメージを膨らませながら、具体的なプロジェクトの立ち上げ等に繋げていきましょう。